

地域金融調査レポート NO.2 (2016年9月)

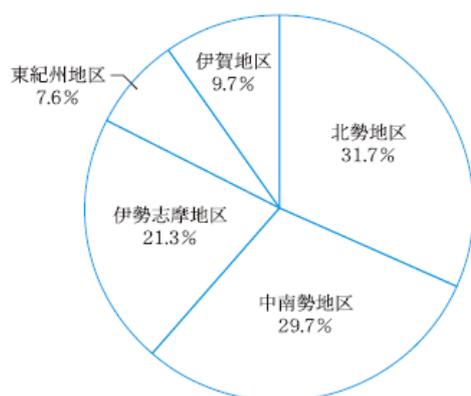
調査レポート名	調査コース No.262
発行機関	第三銀行 経済研究所
発行時期	2016年9月
抜粋箇所	P1～14 掲載のデータを加工

第三銀行が平成28年9月に発行した『調査コース No.262』には、当地域の景況調査に関するアンケート調査があり、その中で特に商工会小規模事業者の皆様に関係すると思われる個所を抜き出して、加工し、以下のようにまとめましたので参考にして下さい。

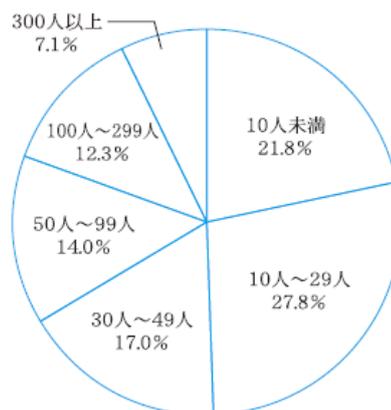
1. 調査方法の概要

- (1) 調査方法: 三重県内事業所 899 社に郵送で配布
- (2) 調査対象期間
 - 平成28年9月期(平成28年4月 平成28年9月)…現況
 - 平成29年3月期(平成28年10月 平成29年3月)…見通し
- (3) 調査時点: 平成28年7月中旬～8月上旬
- (4) 有効回答事業所数(率): 526社(58.5%)
- (5) 回答事業所の属性

(1) 地域別



(2) 従業員規模別



2. 調査結果の概要

- (1) 概要 今期の景況感はやや悪化、来期は改善する見通し

キーワード	概要
景況感 (県内全域)	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成28年9月期の三重県内事業所の景況感 DIは▲9.6%6と、前期比4.3ポイント悪化。 ● 県内事業所の景況感は前期28年3月期には伊勢志摩サミット開催決定の効果などもあって4期ぶりに改善したが、今期は再びやや悪化 ● 今期は円高で企業収益が減少し、個人消費も力強さを欠く状態が続いており、県内

	の景気には停滞
景況感 (地域別)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域別にみると、前期に好調だった伊勢志摩地域では、観光関連などでサミット効果が一段落し、DIが▲7.9と8.7ポイント悪化。 ● これに対して名古屋圏経済好調の影響が及ぶ北勢地域では前期比 1.9ポイントの悪化にとどまり、▲4.1と県内5地域のなかで最も高くなっている。 ● DIの水準をみると、中南勢地域は▲10.0、東紀州地域は▲19.5と、県の南北で景況感に格差があり、伊賀地域は▲21.2と、県内最低水準となった
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備投資については前期比わずかな減少にとどまっている。ただ設備投資の資金調達については、「金融機関借入」が前期より減少し、「自己資金」が増加している。 ● 設備投資は“自己資金の範囲内で”という事業所が依然として多く、日銀のマイナス金利政策が導入されたにもかかわらず、借入れによる設備投資には慎重な姿勢が続いている。
雇用情勢	<ul style="list-style-type: none"> ● 全般的に労働需給の逼迫は続いており、特に「運輸」、「サービス」、「建設」業では、大幅な入手不足状態となっている。 ● 来年の採用計画でも、特に規模の大きな企業では人員の採用に積極的。
来期見通し	<ul style="list-style-type: none"> ● 来期29年3月期の見通しについては、DIが9.8ポイント上昇して0.2となる見通し。 ● 世界経済の減速懸念などが徐々に薄れることや、政府の経済対策に対する期待から、県内事業所は景気の先行きについてやや回復するとみている。

(2) 全般・・・今期の景況感はやや悪化、来期は改善する見通し

- 平成28年9月期の三重県内事業所の景況感は、「上昇」が14.7%（前回調査比0.9ポイントの増加）、「下降」が24.3%（前回調査比5.2ポイントの増加）で、DI（「上昇」－「下降」）は▲9.6となり、前期の▲5.3に比較して4.3ポイント悪化。
- 県内事業所の景況感DIは、前期28年3月期には伊勢志摩サミット開催決定の効果などもあって4期ぶりに改善したが、今期は再びやや悪化している。
- 来期29年3月期については、DIが9.8ポイント上昇して0.2となる見通し。

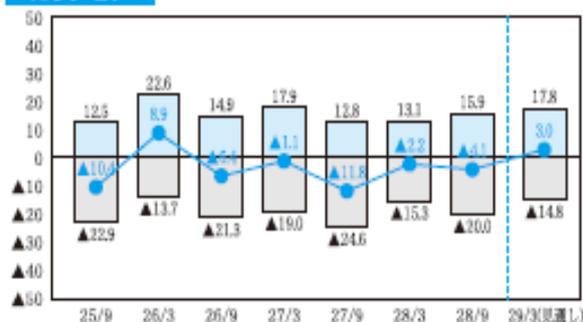
(3) 業種別・・・製造業は改善、非製造業は悪化

	製造業	非製造業
全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 現況DIは、前回調査比2.8ポイント改善し▲3.6となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現況DIは前回調査比8.5ポイント悪化して▲13.0となった。
業種別	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種別にみると、「電気機械」「輸送用機械」などが円高の影響もあり悪化したが、「化学」や「パルプ・紙」など素材関連では改善。 ● 来期については、「自動車」や「電機」など多くの業種で改善する見通しで、円高などの悪影響は薄れる見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種別では個人消費が弱含んでいる ● 「卸小売業」、ガソリン価格下落の恩恵が薄れてきた「運輸業」など多くの業種で悪化 ● 来期については、ほとんどの業種で改善する見通し。

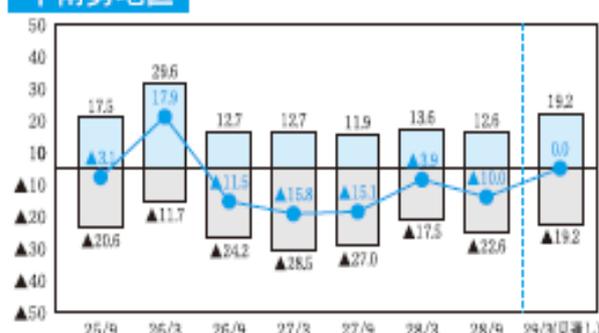
(4) 地域別・・・伊勢志摩は今期落ち込むが、来期再び回復

- 前期の伊勢・志摩地域の DI は 0.8 と県内 5 地域中で唯一プラスであったが、今期はその反動もあって 8.7 ポイント悪化▲7.9 となった。この地域では観光関連などでサミット効果が一段落し、外国人のインバウンド消費にやや陰りが出ている可能性がある。
- 北勢地域では前期比 1.9 ポイントの悪化にとどまり、DI 値は▲4.1 と県内で最も高くなっている。この地域では、経済状況が比較的好調な名古屋圏の影響を受けているとみられる。
- DI の水準をみると、中南勢地域は▲10.0、東紀州地域は▲19.5 と、県の南北で景況感に格差がある。
- 伊賀地域では、卸小売業や建設業の景況感が悪化し、DI は▲21.2 と県内最低水準となった。
- 来期については、全地域で DI は改善する見通しで、特に伊勢・志摩地域では再び大幅に改善すると予想。

北勢地区



中南勢地区



(5) 規模別

従業員規模別	景況感
大規模企業 300人以上	前期比 27.5 ポイントと大幅に悪化。大企業では、円高や世界経済減速懸念の影響が大きく出たものとみられる。
中堅企業 50人以上 100人未満・100人以上 300人未満	中堅企業では DI が逆に上昇しており、円高などの悪影響はそれほどなかったようである。
中小零細企業 10人未満・10人以上 30人未満	中小零細企業でも、比較的大きく悪化している

3. 項目別動向

(1) 売上別・・・今期は減少、来期は増加

- 売上高については、前期比 6.7 ポイント悪化して DI は▲7.6 となった。製造業の DI は前期比 7.1 ポイント悪化して▲2.6、非製造業は 6.6 ポイント悪化して▲10.0となった。どちらかという、小規模企業よりも規模の大きな企業で今期の売上は落ち込んでいる。
- 来期については、DI は今期比 8.2 ポイント改善のプラス 0.6 と、回復する見通。
- 規模の大きな事業所では、期の反動もあって売上は大きく増加する予想。

(2) 採算別動向・・・採算はやや改善

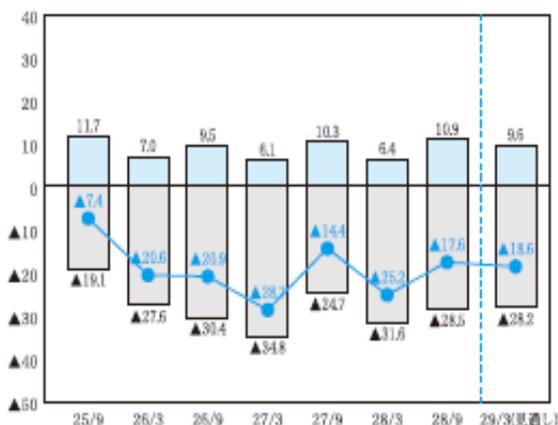
- 採算 DI は▲12.7 と前回から 3.1 ポイント上昇。
- 景況感や売上高は今期悪化したが、収益面は逆に改善。ただ、DI の水準自体は売上高(▲7.6)に比べて低くなっている。
- 来期は 0.4 ポイント低下の▲13.0 と、ほぼ横ばいの見通

- 販売・仕入条件をみると、27年9月期までは仕入条件DIの方が厳しく、販売条件DIを下回っていたが、前期に両者が逆転し、今期・来期とさらに差が広がっている。円高や原油安による原材料コスト減の好影響が出ているとみられる。

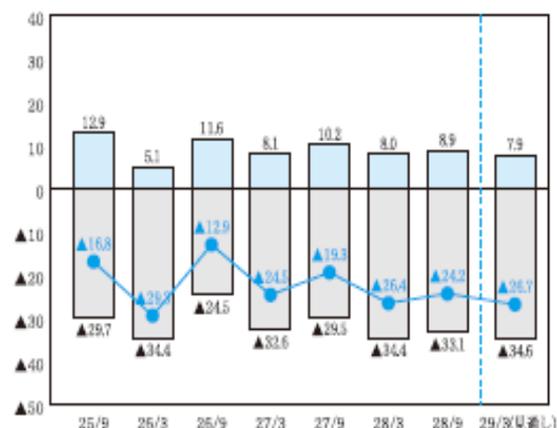
(3) 地域別雇用・・・人手不足状態が続く

- 雇用のDIは前回調査時企25.8から今回は企19.8となり、人手不足の状態はやや緩和された。
- 業種別にみると、DIは製造業全体では▲4.6、非製造業全体では▲29.0となっており、特に「運輸」、「サービス」、「建設」では大幅な人手不足状態が続いている。
- 来期については、全体のDIが▲21.8となり、労働需給が逼迫する状況が続く見通。

北勢地区



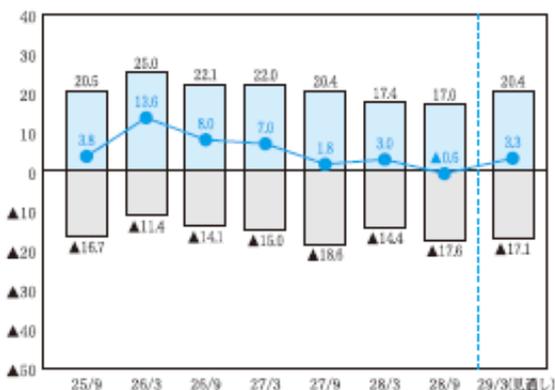
中南勢地区



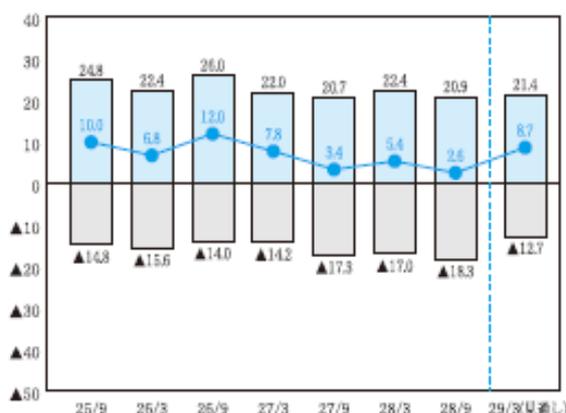
(4) 設備投資別・・・ほぼ横ばい、増産目的は少ない

- 設備投資については、DIは2.0ポイントの悪化にとどまり、プラス2.7となった。
- 景況感の悪化幅や売上の減少幅と比較すると、設備投資の減少は小幅にとどまっている。
- 業種別では、製造業DIは前期比12.1ポイント悪化して▲4.7、非製造業DIは前期と比べ4.1ポイント改善して7.2となった。
- 来期については、製造業、非製造業ともにやや増加する見通。

北勢地区



中南勢地区



※詳しい資料は、調査レポート No.242 経済情報レポート(第三銀行 経済研究所)を参照してください。